

単元名「紙芝居でおかみさんとたぬきの心の交流を伝え合おう」

豊田郡安浦町立三津口小学校 教諭 松浦仁美

1 単元について

子どものすがた

本学級の児童は読み語りや本の紹介、読書タイム等の取組みから読書は習慣化しつつある。

「読むこと」については、明瞭な発音で伝えるために、発音の基礎となる母音を意識的にはっきり発音するように取り組んだ。児童は姿勢や口形に気をつけて、はっきりとした発音で声に出して読むことを楽しんでいる。

「話すこと・聞くこと」については、自分の思いを正確に伝え、それを受けとめて返す関係を確かなものにするために、まず、「聞く力」を育てたいと考え、特に反応しながら聞くことを大切に、「話すこと・聞くこと」の学習規律の定着を図っている。聞くことを大切にすることで話すことが好きという児童が増えているが、発表することに抵抗のある児童もいる。

「書くこと」については、日記や行事作文、読書感想文などいろいろ方法で取り組み、文の続き方に注意しながら楽しんで文章を書こうとする姿が見られるようになってきている。しかし、書く活動には個人差があり、苦手意識をもっている児童もいる。

単元観

教材文「たぬきの糸車」には、たぬきとおかみさんのほのぼのとした心の交流が描かれ、挿絵からもいたずらで、かわいいしぐさのたぬきとやさしいおかみさんの表情が豊かに感じられる作品である。また、物語の展開が明快、登場人物が魅力的、行動描写が中心、情景が描かれていることなどから、豊かな想像力を働かせて読み取る力をつけることができる教材であると言える。また、想像力を働かせながら読み取ったことを基に、お互いの考えを話したり、聞いたりする活動へとつなぐことができると考えられる。おかみさんとたぬきの心の交流に共感し、多様な意見や考え、想像したことを伝え合う中で自分の考えを深めさせたい。

場面の様子や登場人物の心情を想像しながら読む力をつけるために、おかみさんやたぬきの言葉を考え、紙芝居を作るという活動を設定し、「教科書にない言葉」を生み出させたい。

<これまでの取り組み>

- ・「話すこと・聞くこと」の学習規律の習慣化
- ・「ことばのけいこ」の場の設定
- ・一対一の対話を取り入れた学習活動
- ・自分の考えをもたせるためのワークシートの工夫

<課題>

- ・発表することに自信のない児童がいる。
- ・「ことばのけいこ」の充実を図る必要がある。
- ・話題に沿った対話ができにくい児童がいる。
- ・叙述と結びつける読みができにくい児童がいる。

<つきたい力>

- (1) 紙芝居を作る目的をもって、叙述をもとに人物の行動や心情、情景を想像しながら読む力
- (2) お話の内容がよく伝わるように、声に出して読む力
- (3) 自分の思ったことや感じたことを友達と伝え合う力
- (4) たぬきやおかみさんになったつもりで、教科書にない言葉も考えて絵に合うように書く力

具体的な手だて

単元の導入においては、お話を聞いたり挿絵を見たりする中で、わくわくしたり、どきどきしたりという心の動きを見つけさせることで学習への意欲をもたせたい。また、「教科書にはない言葉」を考えて紙芝居を作り、6年生を招待するという相手意識・目的意識をもたせることで、主体的な言語活動を促す。

読取りに当たっては、たぬきやおかみさんに同化させるために、動作化を取り入れたり、ペープサートを活用することで、登場人物に共感して意欲的に読み進めていくことができるようにする。また、言葉と挿絵と生活経験を結びつけながら読む活動を通して、登場人物の心情や場面の様子をより豊かに想像させたい。その際、自信をもって自分の考えや思いを発表できるように、まず、一対一の対話活動を取り入れ、全体の場での発表へとつなげていきたい。

伝え合う場面では、「自分の考えと同じなのか違うのかを比べながら聞く。あいづちを打ったりうなずいたりしながら聞くことにより、話し手を励ます。詳しく聞きたいことや分からないことを聞き返す。」というように、話し手と能動的にかかわる聞き方をさせることで伝え合う力を高めていきたい。

2 単元の目標

- 昔話に関心をもち，進んで読んだり表現したりして楽しもうとする。(関心・意欲・態度)
 お話の中で好きなところや登場人物について想像したことなどを，発表したり話し合ったりすることができる。
 (A 話すこと・聞くこと)
- 登場人物の気持ちなどについて想像したことを吹き出しに書くことができる。(B 書くこと)
 場面の様子や登場人物の気持ちなどを想像しながら読むことができる。(C 読むこと)
 主語・述語の照応した文を作ることができる。(言語事項)

3 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
ア 国語への関心・意欲・態度	昔話に関心をもち，紙芝居にする見通しをもって進んで読んだり話したりしようとしている。
イ 話す・聞く能力	大事なことを落とさないようにしながら，興味をもって聞いている。 自分の思いや考えを相手に分かるように話している。 交互に話し手になったり聞き手になったりして，話題に沿って話し合っている。
ウ 書く能力	たぬきやおかみさんになりきって吹き出しを書いている。
エ 読む能力	人物の会話や行動，描写などから，気持ちや様子を想像しながら読んでいる。 聞き手を意識しながら，工夫して音読している。
オ 言語についての知識・理解・技能	主語・述語の照応した文を書いている。

4 指導計画(全12時間 本時4/12)

次	時	学 習 内 容	評価の計画				
			関	話・聞	書	読	言
1	1	お話を読んで紙芝居を作ることを知り，学習の見通しをもつ。(3) ・紙芝居での昔話の読み聞かせを聞く。 ・教材文を通読し，心に残ったことを交流し合い作品の構成をつかむ。 ・読みのめあてや方法を話し合い，学習計画を立てる。					
	2						
	3						
2	1	場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読み深める。(5) ・登場人物や場面の状況についてつかむ。 いたずらをするたぬきの様子や気持ちを読み取る。【本時】 ・糸車の音や回り方にひかれるたぬきの行動や気持ちを読み取る。 ・たぬきを助けるおかみさんの行動や気持ち，助けてもらったたぬきの気持ちを読み取る。 ・糸の山とたぬきの手つきから，冬の間のたぬきの行動や気持ちを読み取る。 ・ぴょんぴょこ踊りながら帰るたぬきとおかみさんの気持ちを読み取り，続きの話を考える。					
	2						
	3						
	4						
	5						
3	1	紙芝居を紹介する。(4) ・吹き出しを基に，それぞれの場面を分担して紙芝居を作る。 ・発表会に向けて練習し，互いの表現のよさを見つけ，感想を交流する。 ・発表会を開き，招待した人たちとの交流を楽しむ。					
	2						
	3						
	4						

5 本時の目標

場面の様子などから，たぬきがいたずらするわけを想像して話し合うことができる。

6 指導過程

学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1 前時の学習を想起する。 2 本時の課題を知る。	前時までの学習内容を表にして掲示し、振り返れるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どうしてたぬきはいたずらをするのだろう。 </div>		
3 本時のめあてを確認し、1～2場面を音読する。 4 課題を追求する。 (1) 場面状況を明らかにする。 (2) いたずらについて読み取る。 (3) いたずらをするわけについて考える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分の考えをもつ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜいたずらをしたのか一人一人考える。 <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ペアトークで考えを広げる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いた自分の考えを発表し、話し合う。 <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> クラストークで考えを深める。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアトークをもとに自分の考えを全体に発表し、話し合う。 (4) いたずらをして帰るたぬきの気持ちを考える。 5 学習を振り返る。 <振り返りカード> 6 次時の学習の見通しをもつ。	自分の考えを確認するために読むようにする。 さし絵を中心に考えさせる。 「きこりはわなをしかけたこと」「まいばんのようだったこと」をpushさえる。 たぬきに対するインタビュー形式のワークシートに書かせる。 考えにくい児童に対しては、教師がインタビュアーになり、児童をたぬきになりきらせて考えを引き出すようにする。 インタビュー形式にする。 考えが深まらない場合は、ゆさぶり発問をする。 ペープサートで表現しながら考えさせる。 今日の課題が達成できたか振り返らせる。 「どうしてたぬきは糸車を回すまねをしたのか」を考えることを知らせる。	エ 叙述やさし絵を手がかりにして、場面の様子や登場人物の気持ちについて想像したことを、話したり吹き出しに書いたりしている。 (ワークシート) (発言の様子) イ 交互に話し手になったり聞き手になったりして、話題に沿って話し合っている。 (発言の様子)